

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[名古屋市立蓬来小学校] 担当教諭名[中村 敏明] (6年生 72名)

交流相手国[タンザニア]

海外学校名[Kilakala Primary School] 担当教諭名[谷 直紀(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	みつめよう 世界の人々と自分の生き方	70

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	「水はいのち ～ I Love Water ～」
絵に込めたメッセージ	私たちの生活はもとより、自然、動物などすべての命の源である水を大切にしたい。水は国境を越え、世界の様々な国々につながっている。日本とタンザニアも水を通してつながっていることと、互いに交流できた喜びを伝えたい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
これまでの学習では経験できなかった外国の友達との直接交流が実現し、共通のテーマで意見交換や壁画作成ができた。これによって、子どもたちの学習意欲が高まり、国際的な視野や思考の広がりも感じられた。	学校の毎日の教科等の学習や学校行事など様々な活動をこなしながら、さらにこのアートマイルの活動に取り組む時間を生み出すのが大変、難しかった。また、郵送費用の捻出の問題や、相手校との連絡や言語の違いなどに難しさを感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
アフリカの子どもたちが飢餓など苦しい生活をしている印象をもつ子どもが多かった。しかし、交流してみると、キラカラ小学校の友達は、みんなとても元気で明るく、楽しく学校生活を送っていることが分かった。また、水は貴重なもので大切に使用している様子が分かり、日本の私たちも一滴の水を大切にしたり、自分も何かできないかと考えたりするようになった。	キラカラ小学校の子どもたちや教員の方々は、とても日本に興味をもってくださっており、今回の交流を喜んでくれたことをうれしく思った。初めてスカイプを使ってテレビ会議を行ったが、こんなに簡単に、直接、地球の裏側の人々と話すことができることが分かり驚きと感動が味わえた。タンザニアの人々や文化を身近に感じることができ、興味・関心も高まった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	・学校の様子を紹介するプレゼンテーションを作成。相手校からは、フォーラムを使って動画が届いた。 ・テレビ会議を行い、互いに興味をもったことを質問し合った。	プレゼンテーションを見るキラカラ小学校の友達は、日本語が分からないということを前提に作成しなければならないことに気づき、写真を多用したり、英訳をつけたりする工夫が見られた。	総合10
テーマ学習	1学期～ 10月	・「水と生活」をテーマに、興味をもったことでグループを作り、調べ学習。 ・水をテーマにした歌を作成した。 ・テレビ会議を通して、タンザニアの水事情を質問した。	日本に住んでいる自分たちにも身近な水問題がたくさんあることを実感した。また、世界の様々な国々の水事情に関心が高まり、私たちがどんな行動をすべきなのかを考えることができた。	総合35
構図決定	11月	・壁面作成の担当メンバーを中心にデザイン案を作成した。 ・フォーラムにデザイン案と、どのような思いや願いを込めたのかを伝え、相手校の了解を得た。	世界や地球規模で考えたら、一滴の水も無駄にはできないという思いをもち、水を大切にしようという気持ちを高めることができた。日本とタンザニアのつながりを強く意識していた。	総合10
壁画制作	12月	・全員が少しずつ壁画の作成に関われるように分担して作業を進めた。 ・日本側の絵が完成したので、児童集会で全校に紹介した。	授業の時間だけでは足りないので、休み時間も使って一人一人が進んで参加していた。壁画を児童集会で全校に紹介することもでき、どの子も完成をとても楽しみにしていた。	総合8
鑑賞・振り返り	2月	・授業参観の場で、これまでの学習の成果をポスターセッションで発表。 ・完成した壁画と共に記念撮影。 ・卒業式では、会場に展示。	自分たちが学習した「水」への思いや願いがキラカラ小学校の友達と共有できたことが実感でき、とても喜んでおり、大きな達成感を味わっていた。	総合7

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入（A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった）

「成果」先生の手応え（5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった）

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	身近な水問題を調べる学習を通して、水資源の豊かな日本に住む自分たちの問題について考えることができた。
異文化の理解	B	4	アフリカの水事情や生活の様子などを直接、知る機会をもつことができ、興味・関心を高めることができた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	アフリカの友達に伝えようと、写真や絵を用いたり、英訳をししたりした。スカイプではジェスチャーを交えた交流場面も見られた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	5	学校行事の作品展やJICA中部での発表、授業参観のポスターセッションなど、調べたことを発表する機会を多く設定できた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	学習を進めるのに児童が互いによく話し合い、協力して活動する場面が多かった。相手校とも楽しく交流することができた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	プロジェクトの成功に向けて一人一人が必ず、何か役割を担い活動に参加し、自分たちの頑張りを認め合う姿も多く見られた。
学習を追究する意欲	A	4	プロジェクトチームの児童を中心に、自分たちで学習計画を立てたり、調べ方や情報発信の方法を工夫したりする姿も見られた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	一滴の水を日本とタンザニアの子どもが一緒に受け止めながら、水が全ての命の源であると意識して自然豊かな絵を描いた。
作品を鑑賞する力	B	4	自分たちの水への思いや願いを、キラカラ小学校の友達も共有してくれたことが感じられる作品となり、達成感を味わえた。